



防災 大災害が起こったら… 「もしも」に備える

昨年発生した「熊本地震」。私たちは防災について改めて考えさせられています。本市でも「枕崎台風」や「ルース台風」などの大災害に見舞われた歴史があります。いつ起こるか分からない災害を乗り切るため、市民一人ひとりが災害への意識を高め、もしものときに備えなければなりません。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災、平成23年に発生した東日本大震災、そして昨年発生した熊本地震。これらの大災害を受け、全国的に防災意識が高まっています。災害に備えるため、私たちは何をしたらいいのでしょうか。

自助・共助が大きな力に

災害が発生した時は、市や消防が防災無線等で情報を知らせたり、支援を行ったりしますが、残念ながら行き届かない部分もあります。災害が大きくなれば

なるほど市や消防などによる『公助』は行き届かなくなります。そのようなときに重要になってくるのは、自分たちの身は自分たちで守る『自助』、そして地域住民等がお互いに助け合う『共助』です。

日本火災学会が行った調査によると、阪神・淡路大震災の時に生き埋めや閉じ込められた際に自力や家族、近隣住民等『自助』で救助された人は97・5%、救助隊などの『公助』で救助された人は2・5%という調査結果が出ています。つまり『公助』よりも『自助、共助』で

市内の避難所 危ない！ と思ったらすぐに避難

◎避難所を確認しましょう

●第1避難場所（台風・大雨・洪水等）

避難予定場所	避難地区	所在地	電話
健康センター	枕崎地区	日之出町231	72-7176
市民会館	枕崎地区	千代田町114	72-2221
松之尾センター	枕崎地区	汐見町260	72-9289
立神センター	立神地区	大塚南町129	72-1693
別府センター	別府地区	別府東町574	76-2010
城山センター	桜山地区	桜山町256-1	72-2267
妙見センター	枕崎・桜山地区	寿町186	73-1727
金山センター	金山地区	田布川町463	72-9690

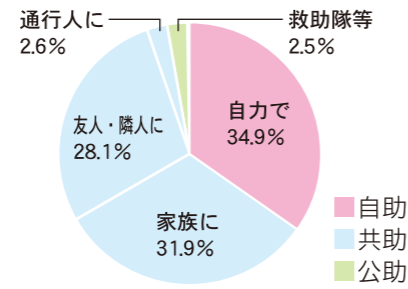
の救出が圧倒的に多かったことになります。

防災の基本は、自分の命は自分で守る『自助』です。『救助される人』ではなく『救助する人』になる事が自助の重要なポイントであり、それが『共助』の土台

になります。

被害拡大を防ぐ 自主防災組織

●阪神・淡路大震災で生き埋めや閉じ込められた際の救助



大規模な災害が発生した場合、電話の不通や道路の寸断などにより集落が孤立したり、防災関係機関の活動が制限されたりする可能性があります。このようなときに力を発揮するのが地域住民で組織する「自主防災組織」です。最近では、石ヶ嶺公民館と平田潟公民館が組織を結成し、平成29年4月1日現在で自主防災組織を結成しているのは、市内全76公民館中60公民館となりました。

阪神・淡路大震災や東日本大

震災等でも救助活動や避難誘導、安否確認などで自主防災組織の活動が被害の拡大を防ぎました。このように、日頃からよく知っている住民どうしが団結し、組織的に活動することで災害による被害を防止・軽減することが期待されます。また、いざというときに的確に活動できるよう、日頃から災害が発生した場合を想定した訓練を積み重ねておくことが大事です。

避難情報名称が変更

昨年8月の台風10号による水害では、東北地方を中心に各地で甚大な被害が発生しました。特に、岩手県岩手町ではグルー

プホームが被災し、施設入所者9人全員が亡くなるというた高齢者の被災が相次ぎました。このような事態を踏まえ、内閣府は、高齢者等が避難を開始する段階であるということを明確にするため、避難準備情報を「避難情報・高齢者等避難開始」に、避難指示を「避難指示（緊急）」に変更しました。

今後、本市においても変更後の名称で避難情報を発令することとなりますので、皆さんがとるべき避難行動について確認し、いざというときに備えてください。

■問合せ 総務課危機管理対策係 TEL 72-1111（内線214）



石ヶ嶺公民館 古閑修一 館長

以前、館長をしていた時に市の防災訓練に参加して、自主防災組織の必要性を感じました。当時は組織結成まではできませんでしたが、住民の意識は高かったように思います。最近は災害が特に多く発生しているため、改めて自分たちで防災に対する備えの必要性を感じて、自主防災組織を結成しようということになりました。災害は他人事ではなく、とにかく住民に意識を持たせることが大事だと思います。これから市などが実施する防災訓練に積極的に参加して、いずれは自分たちで訓練が実施できればと思っています。

interview



平田潟公民館 野村和弘 館長

平田潟は水没しやすい地域で、実際に水没した経験もあることから住民の危機感のもととあったと思います。3月の合同訓練に参加して、自主防災組織の必要性を感じ、結成することになりました。コミュニティが薄れてきている中、非常時こそコミュニティが重要になってきます。組織結成を機に、改めて公民館内の住民のことを把握し、支援が必要な人にはお手伝いをするなどできることからやっという話をしています。6月には訓練を実施する予定なので、それ以降も定期的に訓練を重ねていけたらと思っています。

避難情報の種類	取るべき避難行動
避難情報・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児等)と、その避難を支援する人は避難を開始しましょう。 急激に水位が上昇する恐れのある河川付近に住んでいる人などは、避難を開始しましょう。 上記以外の人については、気象情報に注意し、危険だと感じたら早めに避難しましょう。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 速やかに避難を開始しましょう。 外へ出ることで命に危険が及ぶような場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に速やかに避難しましょう。
避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none"> 緊急に避難しましょう。 外へ出ることで命に危険が及ぶような場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に緊急に避難しましょう。